



War Cry

5月号

福音版
2025
May
No.2887

二〇二五年 五月一日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行

わたしはあなたを贖った。
あなな
あなたはわたしのもの！

ウエンデイ・モーリス

私が子どもの頃、家族で外食することはほとんどなく、食事はいつも家でとるのが当たり前でした。しかし、マクドナルドが新聞

にクーポンを載せ始めた時、それが変わりました。ある日、父が突然「今日はマクドナルドに行こう！」と言ったのです。私たちは驚き

ながらも喜び、初めてのマクドナルドに向かいました。カウンターに着くと、店員さんが「クーポンに載っているものだけ注文できます」と言いました。そこで、

家族全員がハンバーガー、フライドポテト、コーラを注文しました。でも、それで十分でした。外食すること自体が嬉しかったのです。その時、母が、「クーポンを使うということは、お金の代わりにその紙を差し出して、同じ価値の商品と交換することなのよ」と教えてくれました。つまり、私たちが提示したクーポンと引き換えに、マクドナルドがハンバーガーの代金を負担してくれたのです。

今年、私はイエス・キリストの死と復活を自分自身に引き寄せて考え、思い起こしたいと思います。イエスが命を献げられたとき、私たちは贖われ、尊い代価をもって買い取られました。そして、復活されたキリストがお会いする日まで導いてくださることを忘れずにいたいのです。



聖書のイザヤ書にはこう書かれています。「ヤコブよ、あなたを創造された主は イスラエルよ、あなたを造られた主は 今、こう言われる。恐れるな、わたしはあなたを贖う。あなたはわたしのもの。わたしはあな

たの名を呼ぶ。」(イザヤ書43章1節)別の訳では、「わたしはあなたを買い取り、自由にしたい」とも書かれています。クーポンの「引き換え」の意味を学んだと後になつて、私は神が私をどれほど愛してくださっているかを知りました。神は、私の命のために代価を払うほどの愛をもっておられるのです。ある現代訳では、この聖書箇所をこう表現しています。「わたしはあなたのために大きな代価を支払った。それほどあなたは大切な存在だ。それほどわたしはあなたを愛している。わたしは世界を売り払ってでも、あなたを取り戻す。あなたのためにすべてを献げらる。」

「水の中を通るときも、わたしはあなたと共にいる。大河の中を通っても、あなたは押し流されない。火の中を歩いても、焼かれず、炎はあなたに燃えつかない。わたしは主、あなたの神 イスラエルの聖なる神、あなたの救い主。」(イザヤ書43章2、3節)

(救世軍士官(伝道者))

私の信仰の歩み 「主われに先立ち」

謝 慕揚 さん

(救世軍埔里小隊所属)



婚約者と一緒に



救世軍は世界百三十四の国で活動しており、台湾と日本はどちらも「南太平洋及び東アジア地域」に属しています。台湾では、一九九九年の台湾大地震の緊急支援活動をきっかけに、埔里という町に救世軍の小隊(教会にあたる)ができました。その町出身の謝さんに信仰の歩みを聞きました。

生い立ち

私はクリスチャンの家庭に生まれました。父と母は共にクリスチャン二世で、二人の姉と私は幼い頃からずっと教会に通っていました。しかし、信仰について深く考えたことはなく、家族の信仰と自分の信仰は別なものだと思っています。そんな私がクリスチャンであることを自覚したのは、小学生の時に参加したキャンプの後でした。その時のことを詳しく覚えていて、わけではありませんが、自分が罪をもつ者であること、そして私のためにイエスが命をかけて救ってくださったことを信じるようになりました。十字架の救いは深く広く、どのような罪にも関係なく、ただ悔い改めて神を信じることで赦される——これがどれほど素晴らしい恵みであるかを思います。

私は平成十(一九九八)年

生まれで、台湾の埔里という町で育ちました。埔里は決して栄えている町ではありませんが、台湾の人なら誰でも知っている町です。一九九九年の大震災の震源地であり、台湾で最も民族問題が多発している地域でもあります。町には、原住民族のパゼツへ族やカハブ族、漢民族系の客家族や福佬族が世代を超えて共に暮らしており、町の周辺にはブヌン族、セデック族、サオ族、タロコ族、タイヤル族などの民族の村が点在し、宗教文化と歴史が複雑に入り組んでいる地域です。

救世軍との出会い

私は幼い頃、毎週末に祖母の家に行き、そこで他の町の教会の日曜学校に通っていました。しかし、少し変わった小学生だった私は、高学年になると教会の歴史に興味をもち始めました。そして、神学的な観点

の違いについて自分で考えるようになり、通っていた教会の教えを理解しきれなくなりました。その頃から、家族の信仰ではなく、自分にふさわしい教会を捜す旅を始めました。

中学校に入ると、学校と部活が忙しくなり、祖父母の家へ行くことが難しくなりました。そこで、埔里で教会を探すことにしました。部活のクリスチャンの友人たちに相談したところ、そのうちの一人が自分の教会に誘ってくれました。その教会は、一九九九年の大震災の救援隊で来たクリスチャンたちが日曜日に集会をしたことから発展し、教会になった救世軍埔里小隊でした。

最初は「バンドの手伝い」と言われ、行ってみたところ、そこにはまさかの金管バンドがあり、驚きました。さらに驚いたのは、そのバンドの音がとてもひどかったことです。しかし、救世軍の小隊が社会福祉施設を運営している姿を見て感動しました。当時の埔里小隊は、小隊で少年犯罪者と孤児を受け入れる施設を運営していました。ただでさえ民族問題と政治問題で難し



埔里小隊の金管バンド(右端が筆者)

い町で、一つの教会が、報いを求めることなく全力で社会福祉に貢献している——その姿を見た時、「こここそが私が一生奉仕したい教会だ」と思い、救世軍の兵士(信徒)になることを決心しました。

その後、バンドの音がひどかった理由は、私たちが金管バンドの演奏技術や音づくりをきちんと学んでいなかったからだだと気づきました。きちんとした金管バンドの演奏を録音で聞いた後、私は金管バンドの音楽を愛するようになりました。そして、音楽を専門的に学



洗足学園音楽大学の金管バンド



神村学園でのパレード

日本での生活

ぶために国立台中第二高校の音楽科に進学し、その後、鹿児島県の神村学園高等部の音楽コースに転入しました。

「無宗教文化」の中で信仰をもち続けるのは難しいと考える人も多いですが、私の場合は「外国人」という立場がある程度の融通を利かせてくれたのかもしれない。日本に来た私は、ただ自分の信じるものを守るだけだと思っていました。

金管バンドのプログラムをもつ洗足学園音楽大学に進学してからは横浜小隊に通い、信仰を保っていきました。さらに憧れの救世軍のスタッフ・バンドに入り、このジャパン・スタッフ・バンドで初めて、教会音楽についての語り合いと深みを味わうことができました。バンドの中で同じト



ジャパン・スタッフ・バンドに加わって日本の救世軍本営での演奏



教会学校のバンドの演奏

ロンボーン奏者の人との会話は私にとって大切な今後の糧にもなりました。

横浜小隊では土官（伝道者）夫妻と信徒の皆さんに愛され、幸せな日々を送っていました。その土官の方は何と、台湾大地震の救援隊として埔里に来ておられ、埔里小隊のもとになったクリスチャンの集まりを始めたメンバーの一人だったということがわかり、思いを超えた導きと、神様のご計画に驚かされました。

大学にいた間は「キリスト者学生会」という教派を超えるクリスチャン大学生の組織に信仰を守られて、そこで何人かの大親友と出会いました。教会を超えて、

信仰で共に支え合う友達ができました。さらにクリスチャン音楽家の集まりの「ユーオーディア」に入り、たくさん助けをいただきました。

結婚へと導かれて

私は、二十五年間彼女がいませんでした。高校から大学、そして社会人になつてからも、「本当に恋愛経験がないのか」と何度も聞かれ、戸惑うこともありましたが、しかし、二十五歳の年によく、待ち望んでいた彼女ができました！

恋愛経験がないまま二十五歳になった私ですが、高校時代から何度も恋愛観や結婚観について質問されました。ある時、大学の先生や友人から「恋愛対象の条件は何か」と聞かれました。一度も恋愛をしたことがない私にとって、それはとても抽象的な問いでしたが、一旦考えて、性格が合う前提で次の三つの条件を挙げました。

- 一、私がバカだと思わない人
- 二、私と互いに尊敬できる人
- 三、私の信仰を理解してく

れる人

一つ目を言うと、全員が大笑いしました。二つ目を言うと、女性が多いグループの中だったので、皆が共感してくれました。そして、さらに条件を聞かれた私は、クリスチャンとしての世界観と価値観が自分の一部であり、それを人生の指針として貫くことを語りました。

ふと口から、「自分は命よりも信仰を優先する（つまり殉教もあり得る）ことを理解してくれる人でなければならぬ」という言葉が出てしまいました。聞いている人たちは全員クリスチャンではありませんでした。恐らく、皆は引いてしまったのでしよう、それ以降、誰も私に恋愛について聞くことはなくなり、私に聞かれました（笑）。

そんな状態でしたから、私は結婚について「あってもなくてもいい」と考えていました。しかし、二十五歳の時に彼女と出会ったのです。

大学を卒業し兵役をこなした後に、吹奏楽と金管バンドの指導とプロオーケストラの助っ人の仕事で、よく中国と台湾の間を往復するようになりました。ある日、厦門のとある学校のバ

ンドを指導していた私は、同僚のやはりクリスチャンである先生と雑談をしていました。大学時代に話した恋愛対象の条件の話をしたところ、「あの子と付き合ってみない？」という声がかかりました。

それをきっかけに、互いの存在を知るだけだった彼女と言葉を交わすようになり、その後、バンドのコンサートプログラムの話で盛り上がりました。そして、信仰への疑問や決意を語る私が考えたプログラムについて、バツハのキャンターとの神学的観点や音楽史の話を通じて、次第に親しくなり、交際を始めました。そして、今年、結婚することが決まりました。

異性に縁のなかった私ですが、信仰を貫いたことで、最高の相手を主が先立って備えてくださいました。

今、私は諸事情により次の仕事も計画もない状態ですが、賛美歌の歌詞にあるとおり、「主われに先立ち、いずこの里にも、いかなる時にも、御手もて導く」と信じます！そして、「まことを尽くして、主と共に歩む」と決心しています。

創立者 ウィリアム・ブース 大将 リンドン・バッキンガム (万国本営 英国ロンドン)



世界をみつめて

〈万国社会正義委員会〉国連女性の地位委員会への参加

第69回国連女性の地位委員会(CSW 69)の会合が、3月10~21日までニューヨークの国連本部で開催されました。2025年は、1995年に国連の第4回世界女性会議で採択された「北京宣言および行動綱領」から30周年にあたります。北京で提言された12の懸念分野(貧困、教育、健康、暴力、武力紛争、経済、権力と意思決定、制度的枠組み、人権、メディア、環境、女兒)について、これまでの進捗状況を評価する時でした。

救世軍からは、万国社会正義委員会(ISJC)のメンバーや、世界各地の救世軍に属する女性たちが、対面及びオンラインで会合に出席しました。救世軍は、「Free the Slaves(フリー・ザ・スレイブズ)」などいくつかの団体との協力のもと、「女性に対する暴力の一形態としての現代奴隷制と人身取引」のイベントを開催しました。現代の奴隷制

と人身取引を引き起こしている様々な原因について学び、世界中でこの課題に取り組んでいる人々の話を聞きました。また、ISJCに属する若い女性たちによる、ジェンダーの固定観念についてのプレゼンテーション「But I'm just a girl」が作成されました。右QRコードから視聴できます。



〈ノルウェー〉「ハンナの家」の開館

ノルウェー第二の都市ベルゲンで、2025年1月末に、薬物依存の女性のための施設「ハンナの家」が新たにオープンしました。この町で薬物の問題を抱えた女性たちは非常に厳しい状況にあり、しばしば暴力や虐待を受け、困難な人間関係を抱えています。ハンナの家は、そのような女性たちが安心

して過ごせる場所となり、薬物依存から解放されることを目指します。昨年11月に市が実施した調査によると、ベルゲンでは126人の女性が定住する場所をもっていないとのこと。救世軍は自治体との協力関係のもと、これからも地域のニーズにこたえるため協力して活動を続けます。

施設の名称は、1888年にノルウェーで救世軍の働きを開始した女性士官(伝道者)ハンナ・オクタロニーにちなんだものです。オクタロニーは活動の初期にオスロに女性シェルターを設立しました。それから127年経つ今、「ハンナの家」が、多くの重荷を抱えた女性たちが安らぎを見いだせる、平和と恵みの家となることを願っています。



救世軍とは?

救世軍は、世界134の国で活動するプロテスタントのキリスト教会で、国際本部は英国ロンドンにあります。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウィリアム・ブースと妻カサリンによって始められ、東ロンドンのスラム街で困難な生活状況にある人々に助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。日本では1895(明治28)年に英国から士官(伝道者)が派遣されて活動が始まり、今年で130周年を迎えます。各地で小隊(教会にあたる)、病院、社会福祉施設(児童養護、高齢者支援、女性自立支援、アルコール依存症者回復支援等)などを通して、神と人々を愛し仕える働きを進めています。



母の日 5月11日

母の日は、米国のウエストバージニア州で、アンナ・ジャービスという人が、日曜学校の教師をしていた亡き母アンを偲び、その記念会を教会でおこなったことをきっかけに、始まりました。その記念会でアンナは、母が好きだった白いカーネーションを飾りました。

アンナの母アン・ジャービスは、アメリカの南北戦争(1861~1865年)中に、敵味方問わず負傷兵の看護や衛生状態改善のために地域の女性たちをまとめ、活躍した人でした。

母に感謝の気持ちを表すこの考えはやがて国中に広がり、1914年に米国議会で5月の第二日曜を「母の日」とすることが決まりました。日本で一般に祝われるようになったのは、1950年頃からと言われています。

☆『キッズ・ゴスペル』コーナー☆ (子ども向け紙面)



左のQRコードから、今月の『キッズ・ゴスペル』を閲覧できます! 聖書のお話も動画で見られます。ぜひ、ご覧ください!

世界の救世軍の指導者

リンドン・バッキンガム大将 及び ブロンウィン・バッキンガム中將 今秋来日

11/22(土)午後2時 チャリティーコンサート 於: 東京都中央区 日本橋公会堂 11/23(日)午前10時 聖別会(礼拝) 於: 東京都千代田区 日本教育会館9階

救世軍公報 ときのこえ 発行日 福音版/毎月1日、広報版/奇数月15日 定価 福音版/1部40円、広報版/1部100円 (税込) クリスマス特集号(12月1日号)/1部100円 振替 00180-5-4400 発行兼 救世軍 印刷人 代表者 スティーブン・モーリス 編集人 山谷 真 発行所 救世軍本営 https://www.salvationarmy.or.jp 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 電話 03-3237-0881(代表) Mail jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org 印刷所 ピーアンドエス



聖書は新共同訳を使用しています ©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会 救世軍は、旧統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営(左記)、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。 ・私の近くの救世軍を紹介してください。 ・キリスト教についてもっと知りたいです。 ・『ときのこえ』の購読を申し込みます。 ・相談を希望します。